

ベルマーク新聞 6月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

寄贈マーク、増えています

 コロナ禍、SDGs意識の高まりなどが背景?

ベルマーク運動に参加できるのは、原則として学校などです。個人や企業単位では登録できません。でも、個人や企業が集めたベルマークでも、財団にお送りくだされば、すべて支援に活かされます。その意味で、ベルマークは誰でもできるボランティアなのです。

こうした財団に届くベルマークのことを「寄贈マーク」と呼びます。多くが個人からの寄贈ですが、その件数が最近、大幅に増えています。過去5年で見ると、年間2000～3000件台だったのが、2021年は4528件と急増しました。2022年になってからも、この傾向は続き、5月までに2638件の寄贈マークが届きました。前年同期を700件も上回

っています。

理由として考えられるのはコロナ禍。外出規制など行動が制約される中、ベルマークは「自宅に居ながらできるボランティア活動」として見直されたようです。2020年夏ごろから財団HPの寄贈マーク記事の閲覧が急増、そして翌年から実際の到着件数が増えていきました。

寄贈マークは、昨年度は東日本大震災被災校支援などで有効に使わせていただきました。また、昨年5月からは、管理のための「専用口座」も作って対応しています。

◇
もう一つ、寄贈マークが増えた理由として、SDGs (Sustainable Development

Goals、持続可能な開発目標) 達成への意識の高まりが考えられます。貧困や飢餓の解消、気候変動対策などをうたう、国連が定めた17の目標のことです。近年、急速に認知度が高まり、多くの企業が積極的に取り組んでいます。

その目標のひとつが「質の高い教育をみんなに」。ベルマーク運動が当初から取り組んできたことがまさにこれで、いわばSDGsを先取りしてきたと言えるかも知れません。SDGsの普及はベルマーク運動にとっても追い風の効果をもたらしています。

◇
ベルマークは、参加団体が備品を買った、購入額の1割が自動的に寄付され、

支援に役立てられます。自分の学校のための活動が、同時にハンディのある学校への支援になる。これが運動開始当初からの変わらぬしくみです。

お子さんが学校を卒業すると、ベルマークとの関わりはなくなる？ いえ、そんなことはありません。日常の買い物で集まるベルマークは、いつでも支援のために生かすことができるのです。

寄贈マーク、
お待ちしております!!



9万6千点を財団に寄贈

 セイコーエプソン、2012年から取り組みを継続

セイコーエプソン株式会社から、ベルマーク9万6千点分の点数証明書はがきが財団に寄贈されました。協賛会社のエプソン販売(ベルマーク番号73)の親会社である同社は、2012年から使用済みの自社製インク・トナーカートリッジを回収し、ベルマーク点数証明書はがきに交換したうえで財団に寄贈する取り組みを続けています。

収集期間は2021年4月から2022年3月の1年間。長野県諏訪市にある本社に加えて、全国各地の事業所やセンター、子会社の協力が得ました。各拠点からの集約

を担当している総務部・社会支援担当の佐藤幸子さんは、「特に都市部の事業所で在宅勤務を進めており、来客も制限していることから、例年通りの回収が難しかった」と振り返ります。そのような状況下であっても、インクカートリッジは2万個近く、トナーカートリッジは31個も集まりました。

回収は今年度も行っています。佐藤さんは、今後の目標を「コロナ以前の20万点レベルに戻していきたい」と話してくれました。また、「引き続き、多くの方の協力を得て、リサイクルを推し進めたい」とも語りました。



財団に届いた点数証明書はがき